

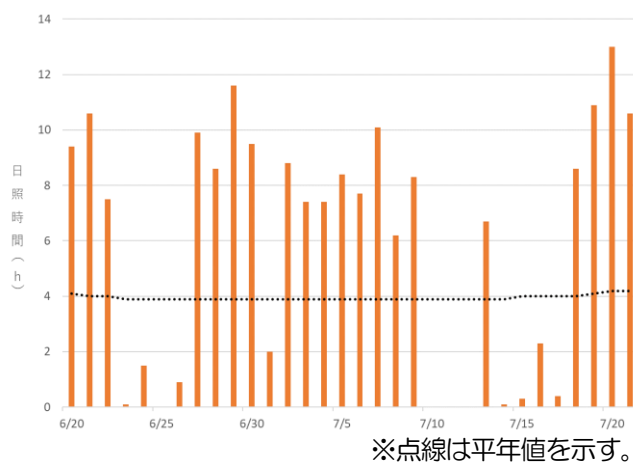
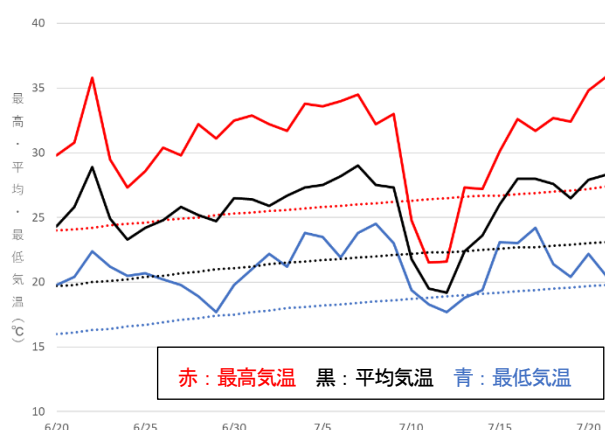
令和7年産 仙南稲作情報（第5号）

令和7年7月24日発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL：0224-53-3496 FAX：0224-53-3138
※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

- 高温により稲の生育が進んでおり、出穂期は平年よりかなり早い（南部平坦は7月20日頃から出穂）。
- 斑点米カメムシ類が多発しています。穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底しましょう！
- 登熟期間中の高温が予想されます。白未熟粒の発生を抑えるために、「飽水管理」を行い、土壌を湿潤状態で保ちましょう！

1 気象経過（丸森アメダス、6月20日～7月21日）

- ・6月から7月9日頃にかけて高温で推移し、その後、一時的に平年を下回る気温で推移しました。期間中の平均気温は平年よりも非常に高くなりました（+4.1℃）。期間中の日照時間は平年よりもかなり多く（149%）、降雨量は非常に少なくなりました（33%）。東北南部の梅雨明けは7月18日頃と発表されています。



※点線は平年値を示す。

図1 気象経過（丸森アメダス、6月20日～7月21日）

※仙台管区气象台（7/17 発表）の「向こう1か月の天候の見通し」では、東北地方太平洋側の日照時間は「多い」、降水量は「平年並か少ない」、気温は「高い」見込みです。期間の全体（7/19～8/15）にかけて高くなる見込みです。

2 管内の生育状況

（1）【7月18日調査結果】

- ・南部平坦の「ひとめぼれ」生育調査ほは、幼穂長が昨年とほぼ同等の約187mmで「穂ばらみ期」を迎え、7月25日頃出穂期になる見込みです。
- ・南部平坦の「つや姫」調査ほは、5月上旬植えは幼穂長が約23mmで、7月25日頃は「減数分裂期」です。5月下旬植えは、幼穂長が約1.3mmで「幼穂形成期」でした。
- ・西部丘陵の「ひとめぼれ」は、幼穂長が約15mmで、7月25日頃は「減数分裂期」です。
- ・山間高冷の「やまのしずく」は、幼穂長が約16mmで、7月25日頃は「減数分裂期」です。

表1 管内の生育調査結果（7月18日）

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が
近いところのデータを参考にして下さい。

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
				本年	前年	(cm)	平年比	前年比	(本/㎡)	平年比	前年比	(枚)	平年差	前年差	(GM)	平年差	前年差	(mm)	平年差	前年差
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/13	5/12	87.7	110%	107%	431	107%	119%	12.8	-0.1	-0.8	33.6	-2.8	-2.9	186.5	+68.4	-6.9
2	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/19	5/18	77.7	108%	94%	321	82%	92%	11.6	-0.5	-0.4	39.2	-0.2	-4.2	14.5	-38.6	-141.2
「ひとめぼれ」平均				5/16	5/15	82.7	109%	100%	376	95%	105%	12.2	-0.3	-0.6	36.4	-1.5	-3.6	100.5	+14.9	-74.0
3	角田市	南部平坦	つや姫	5/23	5/24	77.1	103%	105%	425	99%	142%	12.1	+0.7	+1.6	42.8	+0.4	-0.4	1.3	-2.1	-2.0
4	村田町	南部平坦	つや姫	5/4	5/4	81.4	107%	105%	390	91%	91%	11.9	-0.2	+0.1	32.5	-4.3	-3.7	23.3	-5.4	-112.1
5	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく※	5/26	5/27	72.6	107%	100%	462	95%	112%	未調査	-	-	42.6	+0.5	-4.1	16.2	-7.1	-17.2

◆ 平年値は前5か年(R2～R6)の平均値。ただし、幼穂長のみ令和6年を除いた4か年(R2～R5)の平均値。

※白石市「ひとめぼれ」及び七ヶ宿町「やまのしずく」は前年度から調査ほ場を変更しているため、平年比・差や前年比・差は参考。

※七ヶ宿町「やまのしずく」のみ、7月17日に調査を実施している。

(2) 「だて正夢」(粘りの強い低アミロース品種)

- 南部平坦の5月上旬植え「だて正夢」は、幼穂長が約181mmで、南部平坦「ひとめぼれ」同様「穂ばらみ期」を迎えました。7月25日頃出穂期になる見込みです。
- 葉色は平年よりも淡くなっています。

表2 だて正夢の生育調査結果（7月18日）

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
			本年	平年	(cm)	平年値	平年比	(本/㎡)	平年値	平年比	(枚)	平年値	平年差	(GM)	平年値	平年差	(mm)	平年値	平年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/6	5/5	92	84.8	108	391	398	98	12.4	12.5	▲0.1	35.8	39.2	▲3.4	181.3	129.0	52.3

3 今後の管理

【出穂時期の予測】

- 出穂は、ほ場毎に異なります。幼穂長を測定するか、葉耳間長を確認して、出穂までの日数を把握しましょう。葉耳間長は、±0（葉耳が重なっている時期）が出穂10～15日前の目安です。
- また、出穂は天候の推移により前後してきます。好天が続けば出穂期は早まり、低温・日照不足が続けば生育が鈍化しますので天候の推移にも注意しましょう。
- 現在の生育状況からすると、記録的に出穂が早かった令和6年程ではないものの、平年よりもかなり早い出穂が見込まれます。南部平坦地帯では、5月上旬に移植した中生品種（ひとめぼれ等）の場合、7月20日頃から出穂が確認されられると思われます。また、西部丘陵地帯及び山間高冷地帯では8月上旬頃から出穂してくると予想されます。

表 幼穂の発育過程と出穂期までの日数等の目安

発育過程	幼穂形成期	減数分裂期	
		始期	終期
幼穂長	1～2mm	30～40mm	80～100mm
葉耳間長	—	-10cm	±0cm
出穂前日数	25日	15日	12日

【水管理】

①通常年の水管理

- ・出穂期までは、根に十分に水分を与えつつ酸素を供給できるように間断かん水としましょう。かん水して、自然に水がなくなった後、2～3日田面を乾かしてから、かん水して下さい。
- ・**出穂開花期は水を最も必要とする時期**なので、湛水して浅水管理とします。
- ・出穂開花期を過ぎたら、間断かん水を行いましょう。
- ・収穫作業前の**落水の適期は出穂後 30 日頃**が目安になりますが、出穂後の積算気温やほ場の保水力（乾きやすさ）、天候による乾湿の状態などを考慮して決定しましょう。
- ・倒伏が心配されるほ場では、間断かん水をする際に、田面を乾かす期間を長めにとり、根の健全化を図りましょう。

②出穂後に高温が予測される場合の水管理（今年はこちらの管理が推奨されます）

- ・出穂後の20日間で最低気温が23℃以上となる異常高温が連続するような場合、乳白粒などの「白未熟粒」による品質低下が発生し易くなります。
- ・出穂期以降は、高温による品質低下を少しでも防ぐため、「飽水管理※」を行い、土壌を湿润状態で保ちましょう（出穂後30日頃まで）。

※飽水管理の方法

- ①水尻を閉め、畦畔からの漏水が無いか確認する。
- ②田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
- ③水を止めたら水尻を閉めたまま、自然減水させる。
- ④水田の足跡に水が無くなる頃、または番水のタイミングで次の水を入れる（目安は3～5日おき）。

◎飽水管理は、地温の上昇を抑制し、白未熟粒の発生を抑制できます。

【注意】フェーン現象などの異常高温の発生の恐れがあるときは、速やかにかん水し、ほ場が乾かないようにしてください。土壌表面に水がない状態でフェーン現象に遭遇すると、不稔や品質低下の危険性が高まります。

【追 肥】（田植えの遅いほ場など、これから必要となるほ場のみ）

- ・減数分裂期をむかえると葉色が低下してくる傾向があります、必ずほ場毎にイネの生育状況を確認し、追肥の時期と量を判断しましょう。
- ・**穂揃期以降の急激な葉色低下は、高温時の白未熟粒の発生に繋がりがやすいので、登熟期間の窒素栄養を維持する減数分裂期の追肥を適切に実施しましょう。**
- ・なお、中干しが不十分な場合や生育量が大きい場合は、慎重に判断しましょう。
- ・追肥後は、一時的に「いもち病に対する抵抗力が弱まる」ので注意しましょう。
- ・「だて正夢」は、減数分裂期に窒素成分で10a当たり2kg追肥することが基本です。

○穂肥要否判定指標値及び目安

品種名	幼穂形成期（出穂約25～20日前）			減数分裂期（出穂約15～10日前）		
	葉色		追肥窒素量	葉色		追肥窒素量
	カラスケール	葉緑素計		カラスケール	葉緑素計	
ひとめぼれ	4.4 ～ 4.8	38 ～ 40	1kg/10a	4.0 ～ 4.3	35 ～ 37	1kg/10a
つや姫	4.0 ～ 4.3	35 ～ 37	2kg/10a	—		
まなむすめ	4.0 ～ 4.3	35 ～ 37	2kg/10a	—		
ササニシキ	—			3.5 ～ 3.8	32 ～ 34	1～1.5kg/10a
だて正夢	—			4.3 ～ 4.6	37 ～ 39	2kg/10a

注）カラスケールの値は、県稲作指導指針（基本編）に記載されている

「葉緑素計値（SPAD502値）×0.162－1.709」で計算した値を使用しています。

【病害虫防除】

①いもち病

- ・発生量は「平年並」と予報されています。ほ場の見回りと穂いもちの予防防除に努めましょう。
 - ・管内のアメダスポイントでは「いもち病」の感染に準好適な条件が出現していますので、ほ場の見回りをこまめに行い、早期発見・早期防除に努めてください。
- (※JAこだわり米等に取り組んでいる場合は、防除の前にJAに相談してください。)

②斑点米カメムシ類

- ・**斑点米カメムシ類が多発しています！**（予想発生量：多）
- ・**薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底してください**
- ・**水田周辺の雑草地、けい畔等の草刈りは終了する時期です**

○管内の出穂期は平年よりかなり早くなる見込みです。今後の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込むことになるので、避けましょう。

○殺虫剤による薬剤防除

- ・薬剤防除は、**穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。**
- ・早生品種など周辺ほ場より出穂が早いと、被害が集中する危険性が高まりますので、穂揃期に遅れずに薬剤防除しましょう。

○薬剤防除は広域的に行うと効果が高いので、地域一斉防除に努めましょう。

○水田内にヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類を水田に呼び寄せてしまいます。→残草がある場合は、1回目の防除時期を早めましょう(出穂始～穂揃期)。

< 斑点米カメムシ類 >



※本県の主要種：アカスジカスミカメ

斑点米カメムシ類の防除対策

5～6月	7月	8月	9月
移植期		穂揃期	7～10日後
●水田内の雑草対策		●薬剤防除(1回目)	●薬剤防除(2回目)
●畦畔・雑草地の草刈管理			
●牧草地の適正な刈り取り管理			

防除時期は早まります！

③イネカメムシ

- ・令和5～6年度に、福島県内でイネカメムシの発生が確認されました。イネカメムシは、斑点米や不稔による減収の被害を生じさせます。
- ・イネカメムシの体長は **12～13 mm程度**です。イネカメムシや形状がよく似たカメムシを見つけた場合は、大河原農業改良普及センターや県病害虫防除所へ情報提供をお願いします。

○大河原農業改良普及センター先進技術第一班

TEL: 0224-53-3496

○病害虫防除所予察班

TEL: 022-275-8982



※イネカメムシ

4 直播栽培における管理のポイント

【7月18日調査結果】 ～間もなく「減数分裂期」。穂いもち予防防除を！～

- ・湛水直播栽培の展示ほの生育については、幼穂長は約3mmで幼穂形成期を過ぎています。
- ・生育は概ね順調に推移しています。

表4 生育調査結果（7月18日）

ほ場所在地	品種	播種月日		苗立数(本/㎡)		草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
		本年	平年	本年	平年	(cm)	平年値	平年比	(本/㎡)	平年値	平年比	(枚)	平年値	平年差	(GM)	平年値	平年差	(mm)	平年値	平年差
蔵王町	ひとめぼれ	5/9	5/10	50.8	58.3	72.6	71.1	102%	541	508	107%	12.5	10.9	+1.6	43.3	41.5	+1.8	3.3	4.8	-1.5

① 水 管 理

- ・中干し以降の水管理は、間断かん水を行いましょう。

② 追 肥

- ・減数分裂期の生育を確認して、減数分裂期の追肥を考慮しましょう。追肥量は窒素成分量で10a 当たり 1kg が基本です。
- ・減数分裂期になっても葉色が濃い場合など、倒伏等の恐れがある場合は追肥を控えましょう。

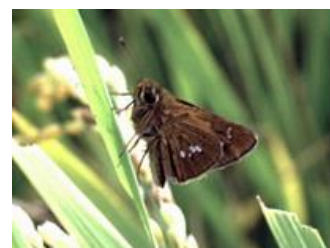
③ 病虫害防除

【いもち病】

- ・いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展する場合が多いので、初発の確認が遅れないようにしましょう。

【イネツトムシ（イチモンジセセリ）】

- ・イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- ・直播栽培では7月中旬の葉色が濃いことから、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害が多くなります。
- ・被害に気がついたときには、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくあります。
- ・発生状況を観察して、適期に防除しましょう。（概ね7月末から8月上旬）



幼 虫 ツト（ツトの中に蛹がいます）
図 イネツトムシの幼虫・ツト・成虫

成 虫

○令和7年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6／1～8／31）

○これから暑い時期を迎えます。**熱中症に注意しましょう！**